

保育園での医療的ケア児の受け入れを求める請願、全会一致で可決



医療的ケアを必要とする子は、保育園に申し込んでも、体制がないことを理由になかなか入園できません。今回請願提出者は、無認可の保育園で3ヶ月入園できた体験から、子どもが集団の中で育つことが、大きな成長につながっていると、認可保育園での入園を強く希望しています。請願審議の中で、医療的ケアを必要としている子どもと家族への支援が不足していることも明らかになりました。どの子ども保育が受けられるよう、体制強化を求めています。

みなとパーク芝浦駐車場料金が大幅引き下げ 利用者の声と党区議団の提案で

みなとパーク芝浦の駐車場料金は、開設以来、利用者から多くの改善要望が出されてきました。一時間だけ無料で、その後は民間駐車場並みの利用料でした。

党区議団は、開設以前から料金設定を見直すことを要求し、開設後も議会のたびに利用料金の無料化と引き下げを求めてきました。この要求が実現しました。

11月1日から実施となりました(表を参照)。

改善策

- ①施設利用者の無料措置時間を2時間無料に拡大(障害者は3時間無料)
- ②現行30分あたり300円を、30分250円に
- ③住民票のコンビニ交付、福祉喫茶カフェールールの利用を無料措置の対象に
- ④住民票のコンビニ交付に対応するため開場時間を午前7時に変更
- ⑤当面、料金変更に合わせて、最大料金を2500円に。駐車場の利用状況に合わせて変更できるものとする

	現行の負担額	変更後	軽減額	現状利用者の割合
1時間まで	無料	無料	—	37.1%
1時間30分まで	300円	無料	300円	32.3%
2時間まで	600円	無料	600円	
2時間30分まで	900円	250円	650円	13.3%
3時間まで	1,200円	500円	700円	
3時間30分まで	1,500円	750円	750円	4.9%
4時間まで	1,800円	1,000円	800円	

「白金三丁目計画」に対し区道を利用する歩行者の安全確保に関し、具体的な対策立案・計画書作成・実行を事業者に求める請願」が提出されました。第2回定例会に提出された同計画の請願が全会一致で採択されたにもかかわらず、業者は住民無視



白金三丁目のマンション建設計画、近隣住民の請願を採択

東麻布保育室は待機児童解消のため、旧飯倉小学校の校舎を改修して区の最初の緊急暫定保育室として開設されました。開設期間が二〇一七年の三月までとなっております。請願者からは、「入園前に開設期間終了時に転園の可能性を了承した上で入園しており期限付きの緊急暫定保育室は保護者にとっては不安がある」「地域と深いつながりがあり、世代を超えた地域の皆様とのふれあいは、現在を生きる子ども達にもち



東麻布保育室の認可保育園化を求める請願採択



10月1日オープンした「しばうら保育園」「アッピー芝浦」

今年四月から保育園の第二子以降が無料になりました。対象人数は七三三人で全園児の一四・九%です。第二子以降の保育料無料化を実施したことは評価しますが、対象に



保育園の保育料を引き下げよ

ならなかった方から不満の声も出ています。上の子が小学生で第二子が保育園なら対象にするなど、対象を広げよう求めました。区は、対象拡大は考えていないと冷たい態度です。

また、所得の階層の変更によって、九月の時点で、一三三七人、全園児の二五・九%の方の保育料が引き上げになりました。

子どもさんが一人で、保育料が跳ね上がった保育ママは、「家賃並みに高い保育料がさらに一・三倍です。」との声を寄せています。保育料が跳ね上がった方に、保育料の減額、他の制度での支援策を求めました。区は、保育料の軽減もおこなわない態度です。



ろん保護者も貴重な体験となっている」と早期の認可化を求めています。党区議団は、条件の整った緊急暫定保育室については早急に認可化できるよう実現をめざします。

の態度を続けているために、区道を利用する歩行者の安全を確保するための具体的な対策をつくり、誠意を持って住民と話し合いを求めるものです。委員会では自民党、街づくりミナトが「継続審査」を主張、それが否決され採択となりました。

4つの意見書を採択

地方税財源の拡充に関する意見書

地方税の根本原則をゆがめる地方法人特別税・地方法人特別譲与税と法人住民税の国税化を直ちに撤廃して地方税として復元するよう要望。

固定資産税及び都市計画税の軽減措置の継続を求める意見書

「小規模住宅用地に対する都市計画税の軽減措置」「小規模非住宅用地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置」及び「商業地等における固定資産税・都市計画税について、負担水準の上限を65%に引き下げる減額措置」は、平成28年度以後も継続することを要望。

子どもの医療費助成制度等自治体単独事業への「国民健康保険療養給付費負担金及び普通調整交付金の減額措置」の見直しを求める意見書

子ども医療費の無料化などの助成制度は、子育て世代の負担軽減と少子化対策として、港区を含め全国の自治体で行っているものであり、「減額措置」については見直しを行うよう要望。

米軍ヘリポート基地に関する意見書

すでに国に対して、基地撤去並びに騒音実態調査等を要請しており、東京都に対しても米軍基地撤去に向けて、さらなる尽力を要望。

振り込め詐欺対策の強化を

全国的には、昨年の振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の件数、被害額ともに過去最高となっております。被害者は50歳以上が9割を超えており、高齢者への防犯対策が重要です。

区や警察が窓口になって東京都が無料で貸し出している、振り込め詐欺撃退のための「自動通信録音機」も効果を上げ、都内の被害は昨年に続きわずかながら減っています。

荒川区では今年2100台を無期限で無償貸与しますが、港区はその5%にも満たない活用実績です。パンフレットなど高齢者が利用する場所に置いたり、声かけをして普及するべきと質問しました。区は、「いっそう周知に努める」と答弁しました。(電話での申し込みは、生活安全推進担当係 ☎3578-2272)

お台場レインボーバスは、台場の住民も、通勤で利用する方にも大変喜ばれています。しかし、台場シャトルバス運営協議会の当初方針で、五年たつて黒字にならない場合は、事業者が自主的に運行するか、それがない場合は運行廃止となってしまう。党議員は、いったん廃止されたら、再度バスを運行するには大きな困難があることを指摘し、港区の姿勢として、なんとしても継続運行へこれまで以上の努力を求めました。区の担当課長も、継続運行ができるよう努力すると答えました。党議員は、この間、運営協議会で様々な改善の取り組みがおこなわれ

て来たことをふまえ、田町駅のロータリー内にバス停を設置すること、品川駅から出発後、港南地域の住宅・学校周辺にバス停の新設、田町ルートと品川ルートの統合の検討、外国人への案内改善などをおこなうよう提案しました。また、「ちいばす」と「台場レインボーバス」では港区の関わり方が違います。「ちいばす」は、車両購入費をすべて補助し、赤字になったらその分が運行経費を補助しています。レインボーバス運行には、車両購入は四台のみ補助、赤字補填はしないことが、決定的な違いです。ちいばすと同様にレインボーバスへ区の支援を要求しました。



お台場レインボーバスの継続運行をなんとかしても

認知症の方が増え社会問題になっています。港区でも、認知症対応のデイサービスやオレンジカフェなどに取り組んでいます。党区議団は、認知症家族への支援としてGPS付きの靴への助成を求めました。家族の知らない間に外出



し、何日も発見されなかった例もあります。家族は警察に頼んだり、自分たちで近所を探し回ったりと不安と心配で負担は大きいのです。



認知症対策としてGPS付き靴への助成求める